

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 大塚校
045(563)5101 いづも
FAX045(563)9907

郵便振替 東京6-136148

No. 62
90.12.20
定価 100円



南オーストラリアの軍事化に反対するパーム・サンデー(4.6) 行動

ペルシャ湾で戦争をおこすな！ ブッシュ大統領にハガキを！
ニュージーランド最新事情／非核独立太平洋会議の報告
今こそ軍縮への対案を（前田哲男） など

[発行] トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

あなたも仲間！（会費は本誌購読料を含みます）

ペルシャ湾に平和を！ 武力は正義を 実現しない

ブッシュ大統領にハガキを！



十一月三〇日、国連安全保障理事会はイラクに対する武力行使を容認する決議を採択した。イラクが九一年一月十五日までにクウェートから撤退しない場合には、加盟国が「あらゆる必要な手段を使うことを正当と認める」という内容である。国連が軍事的措置を容認するのは一九五〇年の朝鮮戦争以来四〇年ぶりのことだという。

世界の人々が望んでいる平和的解決への道を他でもない国連が閉ざした、あるいはかき取り狭くした、とんでもない決定と呼ぶべきである。米国の介入に「お墨付き」を与えた国連はその歴史に恥ずべき汚点を残した。「イエス」と答えた各国はいったい何を考えているのだろうか。

たしかに現象だけを追ってみれば、この決議をきっかけに、イラクは全ての「人質」を解放し、事態は「平和的解決」へと動き始めたかのように見える。しかし、これによいのか。もし仮に「平和的解決」がこの決議をきっかけに実現したとしても、それはただ「国際的正義を実現するには軍事的、それも圧倒的な力が必要である」という前例を世界の歴史に刻むだけではないからである。朝鮮戦争の例を引くまでもなく、軍事的に「国際正義」をこれまで一度たりとも実現したことはなかった。

編集室から



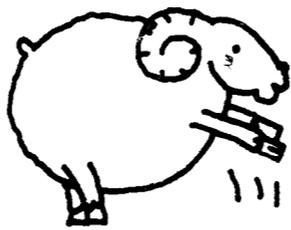
●今年も「トマ喰い虫」を愛読ありがとうございます。ふりかえって見てもなにやらむやみと忙しかったという記憶しかない一年でしたが、創刊から五年の月日は決して無駄ではなかったなあとしみじみと思います。最近では、紙面づくりを「楽しむ」余裕も少し出てきました。●とはいっても、内容的にはまだまだよちよち歩きの「トマ喰い虫」、よりよい紙面づくりを目指して来年もやりますぞ！というわけで、みなさんどうぞよいお年を。

(田巻一彦)

私たちは声を大にして叫びたい。絶対に戦争は起こしてはならない。ブッシュ大統領にあてたハガキを同封しました。平和を求める私たちの声を今こそ集中させましょう。ハガキは一枚一〇円。どうぞ知人、友人に配って下さい。大量に必要な方はご連絡下さい。自衛隊の海外派兵はなんとか食い止めていきます。でも、私たちのまわりの米軍基地が人殺しの出撃拠点にされること、これを黙ってみていることは、どう考えても受入れがたいことです。

◆◆

だいじょうぶ ニュージージーランドは いつまでも非核です



ファーガス・ウィーラー(アオテアロア平和運動)

十一月に来日したニュージージーランドの平和運動家ファーガス・ウィーラーさん(アオテアロア平和運動スタッフ、二十六才)を迎えて、広島、呉、京都、大阪、東京、横浜でトマ喰い虫たちの交流集会が持たれました。東京の集会(十一月二十七日、早稲田幸仕園セミナー・ハウス)でのウィーラーさんのお話から、紙面の許す限り内容をお伝えします。(文責編集部)

国民党はなぜ 選挙で勝てたのか

今年一〇月の選挙で政権が労働党から国民党に交替したことが、ニュージージーランドの非核政策にどんな影響が出るか、皆さんが一番気になることだと思います。そこでまず、ニュージージーランドの非核政策と平和運動についてお話ししたいと思います。

ご存じのように、一九八四年に成立した労働

党政権は、核を積んでいないということ、ニュージージーランド首相が確信しないかぎり、外国軍艦の入港を認めないという非核政策を実施し、六年間政権を維持しました。これは軍艦だけでなく、ニュージージーランド上空に入ってくる航空機も対象となります。

労働党である国民党は、従来核兵器支持の政策をとってききましたが、今年三月に政策を変更し、核を積んでいる軍艦の入港を拒否するという声明を発表しました。この国民党の非核政策と労働党の右よりの経済政策の失敗の帰結として、国民党が圧倒的多数で政権をとりかえたのです。ですから、ニュージージーランドの非核政策は今も保たれています。

ただ、注意しなければならぬのは、国民党が核政策を非核政策に変えたのは選挙で票

を得るためだということです。国民党の上級関係は核を支持する人たちで、核艦船の入港を望んでいます。彼らはまた、ANZUS同盟に再加盟をするためにも努力すると述べています。一九八六年、すくなくとも外交レベルにおいてニュージージーランドはANZUS同盟から追放されました。軍事的なつながりは今でもありますが…。

米国もあらゆる努力をして国民党の政策を変えようと思えます。しかし、ニュージージーランドの平和運動は、国民党が最初に言ったことを守るであろうことに自信をもっています。もし国民党が核艦船の入港を許すようなことがあれば、平和運動は必ず次の選挙で国民党を敗北させます。

一番最近の世論調査によれば国民の八四％は非核政策を支持しています。「核の有無を否定も肯定もしない政策(NCND)」を持つ米国は、今軍艦を一隻も送ってきていません。もし、米国がニュージージーランドに軍艦を送ることがあるとすれば、それは非核の艦船しかありえません。ニュージージーランドの人々は非核を誇りとしており、万一核艦船が入港すれば暴動も起こりかねないからです。だとすれば、米国はニュージージーランドという一国の非核政策を尊重したことになります。それはNCNDの終了を意味します。そうすれば、

日本の平和運動も強い立場で同じような要求をすることが出来ると思います。

さて、ニュージーランドの平和運動は核艦船を入港させない自信はありますが、非核政策を守り通すために気をゆるさず、平和運動の強さを示していく必要があります。今、二つのことを計画しています。一つは「民衆の誓約」というもので、核艦船の入港に反対するという声明に一人一人が署名します。署名と同時に証明書をだします。それを学校、図書館、車などいろいろな場所に貼ることによって非核の立場を示すことができます。もうひとつの計画は、軍艦が入港しそうなになった時、核の有無を記した米国や英国の軍艦のリストを配布することです。何も起こらなければいいと受け身で待つのではなくて、行動のインシヤティブをとっていくことで平和運動は前に進むことができます。

オーストラリアの軍事化の影響

次にオーストラリアの軍事化について簡単にお話したいと思います。
オーストラリアは現在、平和時における最大の軍備拡大をはかっています。その背景の一つは米国の軍事予算削減で、米国は同盟国に軍事費の分担を要求しています。またオース

トラリアの政治家は権力的であり、同時に不安を抱えています。つまり、アジア太平洋地域において支配力を持ちたいと考えています。東南アジアのことを理解せず、東南アジアの人々を理解していません。その結果、軍事化をはかります。軍備拡大は軍需産業や労働組合の奨励も受けています。オーストラリアは米国がリビアに行なったと同じような武力攻撃をする能力を持っています。そして自分たちは独立した軍備を持っていると思っ

ていますが、実際は米国の軍事機構の一部になっています。結論として言えることは、オーストラリアは太平洋地域を不安定にする要素であり、軍備拡大競争の原因になっているということです。
オーストラリアは自国の軍事力増大に貢献するようニュージーランドに圧力をかけています。二年前には四隻のオーストラリア製フリゲート艦を購入するよう要求してきました。平和運動は非常に強力な反対運動を展開しましたが、にもかかわらず労働党政権はオーストラリアの圧力に屈して二隻のフリゲート艦の購入契約にサインしました。しかし、この反対運動で、平和運動が大衆の中に強い力を持つているとわかったことが、国民党の政策を変える力になりました。

メッセージを伝える あの手のこの手

最後に、私たちの運動の方法をいくつかご紹介します。私たちの運動の中に上下関係はなく、一人一人がインシヤティブをもって行動し、また一つのグループが何かを行なえば他の人たちがそれに参加するという具合です。私たちがよくやるのが「落書き」で、崖や通りに面した壁にスプレーで文字を吹き付けます。また街にあるポスターの人物の顔の横にちようどマンガのセリフのように私たちのメッセージを書いた紙を貼っていきます。歩道橋から横断幕をたらし、それを見たドライバーがクラクションで応えてくれるのも楽しいものです。とにかく私たちのメッセージが多くの人の目にふれるように工夫するのです。問題の重要な段階の時期には「全国行動の日」を持ちます。また運動とは少し違った領域として、政治家や一般の人向けの雑誌を出しています。いかにもスマートな体裁で、筋の通った論調の内容です。保守的なアプローチをとっており、平和運動シンパの軍事関係者の記事も載ります。その他ハガキ運動など、いろいろな人があまり努力をしないで参加できる方法を考えます。



開催地のパウァレンガではマオリの子供たちが歓迎の踊りで私たちを迎えてくれた。

非核独立太平洋 会議に参加して

インディペンデンス母港反対を決議

荒川俊児さんに聞く

十一月一日から七日まで、アオテアロア(ニュージーランド)で第六回非核独立太平洋会議が開かれた。三年に一度太平洋地域の非核・独立をめざす住民団体が集まり、経験や意見を交流し、共同のたたかひに向けての討論を深める場だ。参加した反核パシフィック・センター・東京の荒川俊児さんからその模様と印象を聞いた。(聞き手●田巻一彦)

おかえりなさい。日本からは荒川さんのほかに誰が参加したのですか。
カトリック正義と平和協議会の清水靖子さん、北海道のヤイユーカー・アイヌ民族学会の計良光般(けいらみつる)さん、智子さんご夫妻、それに通訳を引き受けてくれた学生の土橋さん。総勢五人でした。
会議の様子を聞かせて下さい。

会場はニュージーランド北島のウァイウクとパウァレンガといういずれも先住民マオリの共同体です。二十八ヶ国から一三〇人が参加しました。肉体的にも大変な会議で、二つの会場を移動するのにバスで十時間かかりました。また、二八ヶ国が参加しているのですから、各国からの報告をするだけでも、一ヶ国十五分で朝から晩までかかる、という具合。今年は一八四〇年に「ワイトンギ条約」が結ばれてから一五〇年にあたります。この条約は、イギリスによるアオテアロア支配の出発点となるものでした。マオリの人々にとっては今年が主権の回復を主張するきわめて重要な年であったのです。

日本から参加者として特に印象に残ったのはどんなことですか。

会議では四七の決議があげられたのですが、ともかく様々な領域で「日本」が問題とされたことです。最初の決議として取り上げられた「放射性廃棄物海洋投棄問題」をとっても、ODAや観光開発の問題を見ても、太平洋の人々が直面する困難や苦しみの根源に常に日本が登場することです。自衛隊海外派兵に反対する決議やインディペンデンスの母港化に反対する決議(資料1)もあげられました。日本の太平洋における活動を人々は「第二の侵略」あるいは「ジャパナイゼーション」と

呼んで批判しています。
「フィジーの問題も大きな議題だったと聞きますが。」

八七年におこった軍事クーデターとその後の軍事政権をどう評価するかで、一部の先住民グループとその他の先住民・非住民グループとの間で意見がわかれまじった。
フィジー住民は大きく分けて先住フィジー人とイギリスによって後から強制的に連れてこられたインド系住民に二分することができず。八七年のクーデターはこの民族間の対立をおおってフィジー系住民の権利を擁護することを主張したのである。

決議案はクーデターによって成立した政権を非難する内容でしたが、それに一部の先住民グループが「先住民の権利を侵害することになる」と強い反対意見を主張しました。インド系住民は先住民とはみなせない、というのです。この決議は一項目ごとに裁決をとり付帯意見を添えるという形で成立しました。

かなりシビアな問題ですね。
たとえば、ハワイの場合、先住民は人口比率では二〇%を切っています。つまり、先住民の権利は単純な「多数決」の原理では守ることができない。つまり、民主主義とは何か正義とは何か、多民族国家というのをどう考えるのか、先住民による支配や収奪をどう考

の退役という太平洋における海軍縮小の絶好の機会を逸することになるだろう。

(ii) 米国および日本政府は国際関係を速やかに改善するかわりに、太平洋への核の前進配備という形で、引き続き冷戦思考を維持しようとしている。その結果この地域は地球規模の軍縮の流れに大きく遅れをとることになるだろう。

(iii) 本会議は米国および日本政府に対して、ミッドウェー退役を機にいかなる空母の横須賀母港をも撤廃するよう要求する。

資料2 ●第六回非核独立太平洋会議決議

ペルシヤ湾岸紛争の 終結に向けて

米国対イラクの戦争の脅威は、太平洋のすべての国に、エネルギー価格の上昇、将来の石油不足、軍事化の増大による影響を与えている。
米軍はインド洋と太平洋を一つの作戦海域と見なし、目下サウジアラビアとペルシヤ湾

えるのか、これらを太平洋民衆の現実の中でどのように解決していくのか。大きな宿題が残されたということだと思います。

●会議では「ペルシヤ湾岸紛争の終結にむけて」の決議も採択されました(資料2)。フィジーもはじめ太平洋各地の状況については、今後もきちんとフォローしていきたいと思っています。(編集部)

資料1 ●第六回非核独立太平洋会議決議

空母インディペンデンスの 横須賀母港化 中止を要求する

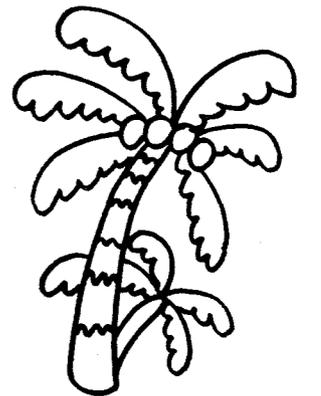
(1) 一九九〇年十一月一日から七日までアオテアロア(ニュージーランド)のウァイウクおよびパウアレンガで開催された第六回非核独立太平洋会議は、米国防総省が現在横須賀を母港としている空母ミッドウェーをインディペンデンスに交代させようと計画していることを知った。

(2) インディペンデンスはミッドウェーに
いる多くの艦船や軍隊は、太平洋にある軍事基地や支援施設から補給を受けるであろう。多くの国がいわゆる多国籍軍への参加を迫られている。オーストラリア、フィジー、カナダ、はずでに参加し、日本は考慮中である。リムパックや他の太平洋軍事演習に参加しているのと同じ軍艦がペルシヤ湾岸地域において練習の成果を発揮している。

中東にとらわれた五万人のフィリピン人をふくむ外国人労働者たちは、クウェートやイラクを出た後においても、この対立の犠牲者である。
多国籍企業は高利益を維持するために、エネルギー供給を制限したがっている。第三世界の資源を搾取するこの欲求は、私たちに太平洋における植民地支配や新しい植民地支配を想起させる。

第六回非核独立太平洋会議は、二十八ヶ国より一三〇名の代表の参加を得て一九九〇年十一月一日〜七日にアオテアロア(ニュージーランド)のウァイウクとパウアレンガにおいて集い、

(1) 米国及びその他の国の軍隊や軍艦の中東への大規模な配備に反対する。米国は市民の注意を冷戦の終結からそらし、高額な軍事費と地球規模の軍事基地システムを正当化する



上回る能力を有している。すなわち、艦齢は十四年若く、全長、排水量ともにより大きく、搭載可能な艦載機の数は一〇機以上多い。さらに乗組員数も約八〇〇人多い。また同空母はミッドウェーと同じ様に核搭載可能であるだけでなく、核戦争の影響により耐え得るように建造されている。さらに空母の更新はより近代化された艦船、とりわけトマホーク搭載可能艦をも横須賀に母港化することを必要とする。

(3) 空母は米国の軍事介入の意図を体現する長い歴史を持っている。インディペンデンスの横須賀母港化はこの地域における諸国民の主権を脅かし、政治的・軍事的緊張を作り出すものである。
(4) インディペンデンスの横須賀母港化は以下のことを意味する。
(1) 米国および日本政府はミッドウェー

るために、この危機を利用している。
(2) 私たちは一国が他の国に対して行う軍事介入に反対するが故に、イラクのクウェート侵攻を非難する。私たちは政府によるものであれ個人によるものであれ、攻撃的な暴力に反対し、イラクによるものであれ、インドネシア、フランス、イスラエル、米国によるものであれ、すべての軍事的占領の終焉を求めらるものである。

(3) すべての外国軍隊が中東から撤退することを要求する。私たちは、中東にいる軍隊に軍事的、兵たんの、経済的支援を送っている国の政府に対して加担をやめるよう強く要求する。
(4) 軍隊や軍艦の派遣を是認する代わりに、私たちは国連に話し合いによる平和的な湾岸危機の解決を求めらる。

(5) 紛争に巻き込まれたすべての人々の命を危うくする食料と医薬品に関する制裁措置に反対する。
(6) この決議は米国、カナダ、フィジー、

日本、オーストラリア、フランス、インドネシア、イスラエルの国の首長及び国連事務総長に送付する。加えて、この会議に参加した各代表は、それぞれが置かれた状況の中で最も適当と思われるやり方でこの決議を公表し、配布する。
(訳 ●編集部) ◆

制の中で、分極した安保観がきわめてはつきり浮上りつつある、と私は思います。一つは堅持派、もう一つは自立派ですね。堅持派は国連平和協力法案を協力に推進しようとしていますし、自立派は「沈黙の艦隊」を黙って読んでいるという構造ではなからうかと思うんですね。見る限り、これからも下がっていくばかり日米安保協力、あるいはアメリカにとつての安保の価値を支えしようにすれば、何が日本のポイントになるかということ、極東条項を取り払ってしまうこと、安保六条の基地の供与の条件を世界的に拡大してしまうことです。実際問題としてミッドウェーは中東まで八十年代の中期からずつと行っておりまして、在日米軍基地の活動状況はもう決して極東の範囲におさまっていないわけですが、これをもう日米安保協力全体に及ぼしてしまおうということになっていくと思うんですね。つまり、今回の国連平和協力法案に見られるように、中東における危機に対しては安保協力が発動できるようにする。海外派兵ができる条件をつくるということだろうと思います。

今回の国連平和協力法案の持つ問題の一つとしてあまり指摘されていないのは、あの法案が出来る、朝鮮国連軍にほとんど物資協力、兵員協力を含めて日本は加担できる、と

す。つまり、ソビエトが一方的に軍縮をし、かつ残った艦艇の配備、行動も極めて限定された防衛的なものにしていくとすれば、アメリカが太平洋に配備している軍艦、航空機、トマホークはほとんど意味がない、ということにならざるを得ない。そういう状態に、五年も十年も軍人は耐えられるであろうか。そういう状態を五年も十年もアメリカの議会は許すであろうか。たぶんノーでしょう。そうではなくてもアメリカの財政事情は逼迫していき、一九八〇年代一番優遇された海軍に対する軍縮の意欲は高まっている。同時に、海軍は一番装置依存性の強い、つまり「金喰い虫」でありますから、海軍の軍縮がこれからはますます目標にされていくことはまちがいないんですね。議会ではずすに、空母十隻という数を出しています。おそらく原子力空母工

いうことです。韓国には朝鮮国連軍と呼ばれている在韓米軍がまだ一万数千人駐屯しています。その後方司令部はこの神奈川県座間市に存在している。あの法案は、何度読み返してみても、朝鮮国連軍に対して協力できないという規定は見当たらない。もし法案が成立したとして、朝鮮国連軍の司令官から要請があれば、あの法律を発動せざるを得ない状況になるのではないか。このことは国会の質問でも出てこないんですが、あるいは法案を作った者の念頭にそういうこともあったのではないか。中東だけではなしに、世界中に安保の枠を広げることができる。これは堅持派がこれから一番やるうとしてある安保及び自衛隊、つまり日米安保協力の方向性であろうと思います。

これに対して、もう一つまだ弱い力ではあるが、きわめてはつきり現れてきたものの中に、自立派、自主防衛派あるいは単独防衛派といわれる人たちがいます。自民党のタカ派であり、制服組の一部も入れていいだろうと思います。これらの人たちはデタント後の新しい敵を探しています。北朝鮮の脅威が盛んに言われ出したことに注目したいと思えますし、インド海軍は脅威であるというふうには海上自衛隊の人たちがかなり強く言うということにも注目したいと思えます。何か次の脅威、



(十一ページ中段へ)

ポスト冷戦—次の道々へ行く自衛隊

前田哲男
(軍事評論家)

今こそ

軍縮への

対案を(II)

敵がいらない—
これが自衛隊には
一大事

(前号より)

ソビエトは一方的軍縮という形で、艦船の廃棄を進めています。それだけでなく、軍事活動をきわめて抑制的なものに交換しました。これも自衛隊の海上幕僚部とか航空幕僚幹部が発表するスクランブルの回数、あるいは三海峡を通過する艦船の隻数によってきちんと言付けることができる。あるいはソビエト側の文書によっても裏付けることができる。新しい防衛ドクトリンにしたがって、我々は外洋での演習をやめた。今年の演習はウラジオストク港外および港内の防衛に限定した。というようなきことを、フバトフソ連太平洋艦隊司令官は言っておりまして、同じことが海上自衛隊の観測機の報告でも認められています。



11月3日/反トマホーク
運動第12回全国会議(横須賀)での発言

す。つまり、ソビエトが一方的に軍縮をし、かつ残った艦艇の配備、行動も極めて限定された防衛的なものにしていくとすれば、アメリカが太平洋に配備している軍艦、航空機、トマホークはほとんど意味がない、ということにならざるを得ない。そういう状態に、五年も十年も軍人は耐えられるであろうか。そういう状態を五年も十年もアメリカの議会は許すであろうか。たぶんノーでしょう。そうではなくてもアメリカの財政事情は逼迫していき、一九八〇年代一番優遇された海軍に対する軍縮の意欲は高まっている。同時に、海軍は一番装置依存性の強い、つまり「金喰い虫」でありますから、海軍の軍縮がこれからはますます目標にされていくことはまちがいないんですね。議会ではずすに、空母十隻という数を出しています。おそらく原子力空母工

ンタープライズを退役させたあとの原子力空母六隻と、近代化を終わったキティホーク及び三隻のフォレストアル級で、新しい空母部隊が作られる、それ以外は廃棄していくという状況がわりと近いうちに出てくるのではないか。今回の湾岸危機にあれだけの大兵力を派遣しながらなお、同じ議会が向こう五年間の国防費二五%、兵員二〇%の削減を決めるということにも、構造的な流れが現れていると思えます。

これは自衛隊にとって、一大事たらざるを得ない。つまり、自衛隊の冷戦肥り、肥大化を保証してきた安保協力、アメリカにとつての日米安保条約の利用価値が今、どん底まできた。これからもっともつと下がっていく。ソ連の脅威という泡がはじけて、エネミーレス(敵がいらない)状態がやってきて、バブルが割れてどんどん下落していきつつある。株と同じです。これを買ひ支えるのはちょっと無理だ。

それでも
安保は堅持
だとすれば...

となれば、どうする。新しい脅威を見つけてるか、あるいは安保協力の枠をとめどなく外してしまうか。今、自衛隊あるいは日本の体

敵を探さなければこのデタント後に組織を温存できない。とりわけ来年から中期防衛力整備計画における軍拡予算を獲得できない。というあせりみたいなのが、新しい敵を探している。

このまま大きな
渦にまきこまれて
しまっているのか

この二つの分極現象がどういう形で展開していくのかをこれから見ていかなければなりません。そして、本来のもうひとつの大きな勢力であった安保破棄派というのは、この分極化された中にうまく入っていないということも、我々はずっと考えなければならぬ。

安保破棄派は、新しいデタント後の潮流を作る勢力たりえていないのではないか。第一次デタントの時に軍縮というテーマを全く掲げなかった反安保派、革新派が、第二次デタ

反核ホット ライン

32

だより

入港情報

- 九〇・一一・一六〜二二・一五
P級II(原子力潜水艦パーミット級)
S級II(原子力潜水艦スタージョン級)
L級II(原子力潜水艦ロサンゼルス級)
- (二一・一九) シカゴ(L級) 午前九時
五二分・横須賀に入港。
- (二二・六) パーミンガム(L級) 午
前八・四六分・横須賀に入
港(沖どまり)。同日午前
九時一分出港
- (二二・七) パーミンガム(L級) 午
後三時六分・横須賀に入港
(沖どまり)。同日午後三
時一分出港。

原潜入港記録更新

*一九九〇年一月一五日現在で各港への原
子力艦の入港回数
横須賀 三二回(うち原潜三二回)
佐世保 一回(うち原潜 〇回)
ホワイトビーチ 九回(うち原潜 九回)
計 四二回(うち原潜四一回)

二月七日のパーミンガム(L級)の横須
賀入港により、米原子力推進艦の入港は三二
回目となり、艦種すべて潜水艦。潜水艦の入
港回数(入港回数だけ)とみると、この記録は
六六年の初入港以来、八六年の三一回を抜き、
過去最高となった。滞在日数では、八八年の
二〇三日間、八九年の二〇二日間についての
一九三日間(二月一五日現在)と過去三番
目となった。

二月六日のパーミンガムの入港(過去最
高の記録とタイ記録になった日)の際に、「平
和船団」のゴムボートが、監視活動を行った
時に、米軍海軍のポリス艇が近づき、迷彩服
の兵士の一人がライフル銃を持ち上げて下ろ
し、持っていること誇示したという。
通常は、キャビンに四人しか乗っていない
のに、この日は後部に兵士七人が乗船し、ヘ
ルメットにライフル銃姿だったという。



平和船団のゴムボートに近づいてきた米海軍

八四年から行っている監視活
動の中では初めてのことという。
現場は立ち入り禁止ではなく停
船禁止区域なので、通り過ぎる
なら大丈夫なところである。「厚
木基地に迫撃弾が打ち込まれた
り、中東情勢もあって米軍側も
ビリビリしているのではないか」
と平和船団の鈴木団長は語って
いた。

(二月六日・神奈川新聞要約)

原子力艦入港情報 テレホンサービス

プッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071
ク ロ ハ イ レ ナ イ

読者から

●『トマ喰い虫』の61号(11月20日発行)は、
とくによいできばえと思えました。いわゆる
レイアウトがよかったです。いもあつてしょう。
東京近辺はあたりまえかもしれないませんが、
佐賀県や広島県からのお便りを拝見すると、
いっそう励まされます。教えられます。
ひとつ注文。前田哲男さんのご発言は、や
はり「一挙掲載」していただき良かったです。
(教員/東京都)

*「本名を掲載可」とのことでしたが、お
名前が書かれていませんでした(編集部)

●わたしや、サダム・フセインに言いたい。
アラブの盟主をめざすなら武力は捨てよ！
て。イラクだけなら「力まかせ」で何とかな
っても、今の世の中、アラブの盟主を目指す
んなら、「平和」をかかげなきゃ他のアラブ
も世界もついていかないよ。それに、ブシ
ュのおじさん、あんまり騒ぐともっとみつと
もないよ。「大国」が泣くつてもんよ。もつ
と広い世論の支持を受けられるよう、ソフ
ト・ムードがいかなくっちゃサイと思う。

ほいでもって、うちの海部君に言いたい。憲
法九条を、大きな声で十ヶ年国会で唱えろと、
胸がスットすると思うんだ！

(でかまる子/設計士/山形市)

おたより
待っています。

(九ページから)

ト、すなわちより大きな、より本質的な、よ
り根源的な変化をもたらしてくる時期に、
何の見通し、展望も出さないとすれば、第一
次デタントの時と同じように、また大きな渦
に巻き込まれてしまうかもしれない、という
気がします。

自衛隊は今、荒野に投げ出されているとい
う意識で、次の道を模索していると思うんで
すね。それに対抗する我々の構想とか、政策
が打ち出されるべき時期なのではないか。そ
れに向かって努力を傾注すべきではないので
しょうか。

◆おわり

追悼

田村清さん



核戦争防止神奈川県医師の会代表世話人で
神奈川を非核にする県民運動代表の田村清さ
んが十二月十六日に亡くなられました。八十
一才。戦前・戦中・戦後を通して反戦平和・
反核の意志と行動を貫き通した生涯でした。
横浜市で医院を開業するかたわら、「核の
悲惨さを最も良く知っているのは医者」と、
ひたむきに反核運動にとりくまれました。筆
者も神奈川を非核にする県民運動の運営委員
の一人として、親しく行動をともにさせてい
ただきました。その飄々としたお人柄、常
に新しい発想を求め続けるしなやかな姿勢は
つねに世代を越えた共感と敬愛を集めていま
した。反トマ全国運動に対しても物心両面か
らの支援を送り続けてくださいました。
田村さんの少年のようにみずみずしい心は、
永遠に私たちの中に生きつづけるでしょう。
安らかに眠りください。(田巻一彦)

メディア紹介

短編カラー・アニメーション(25分)

タイコンデロンガのいる海

25年前、沖縄沖で水爆もろとも艦載機を水没させた空母タイコンデロンガ。水爆が生んだ海の魔物・タイコンデロンガ(誤植ではありません)と少年のたたかひを通して生命と平和の尊さをうたう、すてきな小品です。本紙編集長もそのお披露目上映会(12月5日・東京)を見ました。これはおすすめ、と太鼓判をおします。

- 制作 こぶしプロダクション ☎03(357)5608
- 16ミリカラー・プリント 売価22万円
- 貸し出しもあり(直接プロダクションへ連絡を)

岩波ブックレット

空母ミッドウェーと日本

梅林宏道著

80機の艦載機、5000人の乗組員を乗せた浮かぶ攻撃基地・ミッドウェーが横須賀を母港にして17年がたった。核疑惑、軍事介入、艦載機の騒音被害、事故の恐怖...数々の資料を駆使してこの17年を検証します。インディペンデンスの母港を考えるために、ぜひ読みたい一冊。

- 1月21日発売
- A5版64ページ
- 定価350円



会計報告

(90. 11. 20~12. 12)

[収入]

○前月からの繰越	35,316
経常繰越	285,316
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	209,712
会費収入	172,000
内	
維持団体	100,000
維持個人	2,000
参加団体	37,000
参加個人	3,000
通信会員	30,000
カンパ収入	12,500
行動収入*	16,037
資料収入	3,600
反核ホットライン収入	5,575
アンケート調査収入	0

[支出]

●今月の支出	240,339
家賃	30,000
水道光熱費	7,294
電話代	17,514
郵送費	43,173
文具代	0
印刷費	29,856
行動費	0
資料経費	0
反核ホットライン経費	11,422
アンケート調査経費	0
郵便振替等手数料	1,080
借り入れ金返済	100,000
●次月への繰越	104,689
経常繰越	254,689
借入金繰越	△150,000

[会計より]

おかげさまで、今回借り入れ金を一部返済することができました。「冬季カンパのお願い」を同封させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

月刊トマ喰い虫第八十一号
一九九〇年十二月二十日発行(通巻六三号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九
バル青山五〇二 トマ喰い虫社
☎〇三(四九八)六〇九五 毎週火夜
〇四五(五六三)五一〇一 いつでも
FAX〇四五(五六三)九九〇七
郵便振替 東京六一三六一四八
*編集 トマ喰い虫編集委員会
*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)

「トマ喰い虫」を
いっしょに
作りましょう!



●「トマ喰い虫」はすべて手作りのニュースレターです。ミニコミ作りに興味のある人、平和運動のホットな情報にふれてみたい人、イラストやデザインをやってみようかな、なんて考えている人、ワープロ打ちならまかせなさい、というあなた! 連絡ください。

●毎月20日直後の日曜日は発送の日です。午後2時からか日吉のトマ喰い虫社分室(045-563-5101)で。のぞいて見て下さい。1月27日(日) 午後2時から

(発送のあとはささやかな新年会です)